

## 城東学園保護者意見交換会 質疑応答録

日時	令和6年7月23日(火) PM2:00～3:00	令和6年7月27日(土) AM10:00～11:30
場所	大東北公民館 集会室	きとうこども園
出席者	保護者 2名 検討委員 2名 事務局 7名	保護者 8名 こども園職員 2名 検討委員 3名 事務局 7名

### 7/23(火) (参加者が少なかったため、事務局から質問し回答いただく方法で運営)

#### 1. 小中一貫校になることについて

問	個人的には良いイメージを持っている。今も、こども園に中学生が来ることがあり、年の差のある交流は良いと思う。小中一貫のデメリットはあるのか。
回答	小学6年生は最上級生としての責任を感じ、成長するといわれているが、小中一貫で9年間となると6年生が最上級とならないため、成長の機会が減ると危惧する声もある。一方で、4-3-2年などの区切りを設けることで、それぞれの段階におけるリーダとして責任を持たせるなどの方策も考えられている。また、中学生の悪い影響をうける、いじめの対象となるなど懸念を感じる方もいるが、既存の一貫校では、中学生が小学生に対して気を配ることやお手本になろうと考え生活習慣が良くなるといった良い面があると聞いている。小学生は身近に中学生がいることで目標ができ、小学校から中学校への環境の変化を感じにくくなるため、メリットになると考えている。
問	隣接型か一体型かは決まっているのか。
回答	現段階においては検討中であり、結論はでていない。
問	沖縄や離島などでは小中一体校が多いが、小中が分かれている環境で育ったため、小中学生と一緒に生活するというイメージがわからない。メリットを伺って納得する部分もあるが、まだわからないというのが本音。イメージとして、小中は分かれている方が良いと思う。ただ、一緒に出来ることは一緒に行えば良い。いつでも行ける距離くらいが良いと思う。中学生は年頃なので派手になる子もいる。うちは女の子二人なので、小中は分かっていた方が良いと感じる。
回答	先進地に視察に行ったが、小中では授業時間が違うため、終わりのチャイムを流さない。小学生は45分授業のため50分授業の中学生より早く終わるが、中学生が授業の間は自主的に5分間、静かにする等の気遣いをしていた。中学生と小学生が手をつないで登校する場合もある。小学生と中学生と一緒に遊んでいる等の光景が見られた。うまく子どもたちの連携がとれるなど、良いところしか目につかない。 6年生から中1になると環境の違いが大きく、不登校等が多く発生する「中1ギャップ」という現象があるが、小中一貫校ではギャップが少なくなるという良さもある。

## 2. 学校の場所について

問	現在、小中学校が建っている場所は災害危険の場所になっているが、女子医大跡地はどうか。
回答	がけ崩れの範囲に一部含まれている。城東中学校ほど傾斜がきつくないため、工事等により対策ができるのではないかと考えている。こども園の整備においても議論をしながら対策を考え整備した。そのような経緯も踏まえ、検討したいと思っている。
問	同居する小中学生で、中学生は自転車、小学生は徒歩になる可能性があると思う。その場合はどうなるのか。原野谷ではどう考えたのか。
回答	通学の方法については様々な意見をいただいた。中学生が自転車なのに、小学生が徒歩なのはどうかという意見もあった。発達段階に応じて、中学生が自転車通学になることは適切と考えているので、小学生との差が出ることは致し方ないと考えている。また、小学生の基準に合わせて中学生も4kmを歩くといった変更は難しいと考えている。場所が決まれば、学校の位置から3km、4kmの位置を示しながら、説明していきたいと考えている。場所が決まらなると正確な情報の提示ができないため、今年度の後半となると思うが、準備していきたい。
問	このままだと1年生と2年生が同じクラスで授業を受けることになるのか。
回答	そうした状況を複式学級というが、国の基準では、2年生以上は16人以下、1年生を含む場合には8人以下となったら1つのクラスになる。静岡県は基準を緩和しており、2年生以上14人以下、1年生を含むと7人以下で複式学級になる。小中学校では複式発生の懸念があったが、昨年人数が増え、現在の人数でいけば複式の発生はない見込み。今後、引っ越しなどで児童生徒が減った場合は可能性がある。随時児童生徒数については情報提供していきたい。
問	個人的には城東中を建替えて、小学校を女子医大跡地に統合することがベストと考えている。予算についても検討が必要だが、隣接型についてはどう考えているか。また、この地区は園もバスではないため、小学生のバス通学というイメージがわからない。そのあたりはしっかりと説明してもらおうと良いと思う。
回答	掛川市では、路線バスの運賃負担やスクールバス運行の通学支援を行っている。小学生4km以上、中学生6km以上が支援の対象。中学生は2km以上で自転車通学のため、現在小学生の基準に関して緩和を検討している。 一体型のメリットとしては、小中学校それぞれの教員が双方の授業を担当できる点。隣接型の場合、移動にかかる時間が増え一貫校のメリットを活かせないため、教育委員会としては推奨しないというのが本音。校舎が隣り合っているような隣接型であれば、相互に行き来しやすいと思うため、一貫校としてのメリットを生かせるような配置を検討したい。検討委員会の中で意見を伺いながら、ご相談させていただきたい。

### 7/27(土) (保護者4名ずつの2グループにわかれて意見出しを実施)

#### 1. わからなかった点・疑問点

問	小中一貫校を建てることは決定している理解で良いか。
回答	その通り。建てるためにご意見を伺いたい。

問	複式学級とはどういうものか。
回答	2つの学年が1つの教室で、1人の先生から学ぶクラスのこと。国と静岡県の基準があり、現時点では城東地域の小学校では発生しない見込み。
問	通学支援はどうなるのか。
回答	現行の基準では、小学生は4 km 以上離れている場合に通学支援の対象となる。市費でのスクールバスの運行もしくは定期券の支給を実施する。現在この4 km の規定を緩和の方向で検討している。
問	下校の際の通学支援はどうなるのか。
回答	低学年と高学年では下校時間が異なるので、下校時はスクールバスを2～3便出す予定。
問	スクールバスで通学する場合、どこかに集まるのか。
回答	乗り降りする場所を決める。バスが止められる場所を作って対応したい。児童が住む場所が変われば変更もありうる。
問	学童保育所が6年生まで延びる可能性はあるか。
回答	今は場所が確保できないこともあり3年生までとなっている。一貫校を建てることになれば、学童の場所も確保し、6年生までが使用できるようにしたいと考えている。
問	新しい学校が建つまでの間に、今の困りごとは対策してもらえるか。
回答	施設面に関しては、新しい学校が建つまでは対応は難しいと考えている。
問	原野谷学園での検討はどのような意見が出たか。
回答	一貫校を作りたいという意見は一致している。建設地で反対意見があるので、慎重に地元の意見を伺っている。通学支援の問題について、4 km では遠いという意見が多かったので、原田小の原谷小への統合に合わせ、通学支援の距離を3 km 以上とした。
問	原野谷での反対意見にはどういうものがあったか。
回答	反対意見は高齢の方に多い。学校は地域の中心のため、学校がなくなることで喪失感を感じており、地域の衰退を懸念している。
問	中学校の部活動はなぜ外部に委託することになったのか。
回答	少子化で部活動の選択肢が狭まっている。子どもたちが望む部活動を実施できるようにしたいと考えている。教職員の負担を減らすことも目的のひとつ。
問	子どもたちが使用する iPad は重量があり大変である
回答	教科書がデジタル化になるため今後、荷物は減ってくる。

## 2. 小学校が統合されることについて

問	統合にあたって事前の交流はあるのか。
回答	実施する。令和7年度に統合する原田小と原谷小も頻度高く実施している。

## 3. 小中一貫校になることについて

問	学習の面でプラスになることは何かあるのか。先取学習とか。
回答	先取での学習は教育課程によるので何とも言えないが、現在中学校で行っている教科担任制を小学校でも導入したいと考えている。専門性を持った中学校の教員が教える等も実施できると考えている。
問	学習面でのデメリットは何があるか。
回答	生徒数が多くなるので、教員の目が行き届かなくなる可能性がある。
問	小中学校の教員が連携して子どもを見られるのか。
回答	中学校の教職員が、小学生時代から生徒を知っているというのは大きい。施設一体型にした場合には、職員室も小中で同じになるため、教員同士の連携はしやすくなると思う。
問	制服はどうなるのか。
回答	保護者の皆様の意見を伺って決定していく。他市では小学1年生から導入しているところもあるが、買い替え等で費用もかかるため、ご意見を伺いながら決定する。

## 4. 学校の場所について

問	土方小と幼稚園を一緒にすると、敷地面積は十分か。
回答	今回答できないが、3ヘクタール程の敷地が必要と考えている。
問	まだ、どこに建てるか未定でよいか。
回答	平成29・30年の2年を掛けて、小中一貫校のあり方、学校のありかについて検討してきた。小中一貫校は、施設一体型、隣接型などがある。場所については用地取得するとお金がかかる。小中一貫校整備は学校敷地で考えることとしている。候補としては、城東中、東京女子医大跡地の2箇所を考えられる。現在、候補地について検討委員会に投げかけている。